

平成30年 4月24日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16978

研究課題名(和文) 政党指導部による所属議員への政治資金、政府支出、役職の配分と政党の一体性維持

研究課題名(英文) The Sources of Party Unity in Legislative Voting

研究代表者

藤村 直史 (Fujimura, Naofumi)

神戸大学・法学研究科・准教授

研究者番号：20551493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、政党がいかに所属議員の再選を支援しつつ党の規律を維持しているのかを検討した。現代の民主主義国家において、政策決定に中心的役割を果たすのは、政党である。ところが、政党は、異なる有権者や利益を代表する多様な議員によって構成される。この性質によって、政党は、ジレンマに陥る。個々の議員の再選のためには各議員の多様な利益を実現することが必要な一方、法案を議会で可決するためには所属議員に一体的な投票行動を課す必要がある。本研究は、政党は所属議員の政策的立場に応じて、選挙区への政府支出、選挙資金、役職などの資源を配分することで、議員の再選を支援しつつ党の政策へ賛成させていることを示した。

研究成果の概要(英文)：This study has examined how political parties discipline members' voting behavior while facilitating members win an election. The study argues that parties seek to achieve both party unity and members' electoral success through electoral resource allocation to members. Using a unique dataset of party leaders' campaign visits to candidates, the study finds that parties allocate resources to members who are ideologically more distant from the party as compensation for their electoral losses in policy areas concerning general benefits, and allocate resources to members who are ideologically closer to the party median as a reward for their ideological loyalty in policy areas concerning particularistic benefits.

研究分野：政治学

キーワード：政党組織 議員行動 議場投票 党議拘束 agenda-setting

1. 研究開始当初の背景

現代の民主主義国家では、政党が選挙や立法で中心的役割を担っている。しかし、政党は様々な利益や有権者をもつ議員によって構成されている。この性質によって、政党はジレンマに直面することになる (Snyder and Groseclose 2000)。政党は、**個々の所属議員の再選のためには、彼らの多様な政策的立場や利益を個別に実現する必要がある。他方、議会で法案を可決し政策を実行するためには、所属議員に対して党議に沿った一体的投票行動を課す必要がある。**所属議員の中には、政党が実行しようとする政策が自身の有権者利益や政策的立場に反し、再選可能性の低下を被る議員も存在する (Canes-Wrone, Brady, and Cogan 2002; Carson et al. 2010)。

先行研究は、政党は、政府支出、選挙資金、役職などの資源を選挙的に所属議員に配分することで、党の政策に賛成させようとしているとする (Cann and Sidman 2011; Cantor and Herrnson 1997; Carroll and Kim 2010; Cox and McCubbins 2007; Damore and Hansford 1999; Jenkins and Monroe 2012; Kanthak 2004; Nokken 2003)。一方で、資源をどう配分するか、**特に党の政策に忠実な議員と反対する議員のいずれに資源を配分するかをめぐって対立するモデルが提示され、明らかにされるべき課題が残る。**

2. 研究の目的

目的の要約

問い：政党は、いかに所属議員の再選を支援しつつ党の規律を維持しているのか？

答え

明らかにすること：政党は、所属議員の政策的立場に応じて、選挙区への政府支出、選挙資金、役職などの資源を配分することで、議員の再選を支援しつつ党の政策へ賛成させている

実証

明らかにする方法：所属議員の党内での政策位置と資源配分の関係を統計的に検証する

本研究は、「**政党はいかに所属議員の再選を支援しつつ党の政策に賛成させているのか**」を問うことである。上述の通り、政党の一体性に関する先行研究は、資源の重要性では一致しているものの、その配分の仕方、特にどの所属議員により資源を配分するのかについては、見解が対立している。

本研究は、この問いへの答えとして、資源配分が政党の一体性に与えるメカニズムは、政策分野によって異なるという点に着目する。そのうえで、「**政党は、所属議員の政策的立場に応じて、選挙区への政府支出、選挙資金、役職などの資源を配分することで、議員の再選を支援しつつ党の政策へ賛成させている**」ことを主張する。

3. 研究の方法

上記の主張を検証するために、日本をケースとし、選挙資源として総理大臣の選挙期間中の候補者への訪問に焦点を当てた。具体的には、候補者の政策位置と内閣総理大臣の訪問の有無の関係を分析した。

総理大臣の候補者訪問については、「首相動静」などの新聞による総理大臣の行動情報をもとに、総理大臣の行動を数量データ化した。国の代表 (総理大臣) の行動が逐一公開されているのは、他国では例のない日本のみの貴重なデータであり、それを用いることは方法論上の貢献も大きい。

上記のデータをもとに、候補者の政策的立場と総理大臣の候補者訪問の関係を計量的に検証した。

4. 研究成果

本研究の分析からは、政党による所属議員への資源配分は、政策分野によって異なることが明らかになった。外交防衛分野では、政党は議員の政策的損失を補てんするために、政党の政策から遠い議員に資源を配分する一方、個別利益分野では、議員の政策的忠誠へ報酬を与えるために、政党の政策に近い議員に資源を配分している。

本研究は、政党組織研究に主として3点の貢献をしている。第1に、資源配分が政党の一体性に与えるメカニズムは、政策分野によって異なることを示した。第2に、従来の研究は、党の政策に忠実な議員と反対する議員のいずれに資源を配分するかをめぐって対立するモデルを提示してきたが、本研究はそれを統合し、統一的な資源配分モデルを提示している。第3に、本研究は、議員がなぜ再選を害するはずの政策に賛成するのか、言い換えると、なぜ異なる政策的立場を持つ議員が党議に沿って

一体的な行動をするのかを説明しており、「政党政府モデル」を理論・実証的に支えている。

成果は、下記の通り公表された。特に、英文査読誌に2本掲載されたことで、国際的に高い評価と関心を得られた。特に、掲載された *Journal of Legislative Studies* は議会研究の分野では最高峰のジャーナルの1つであり、高い評価を与えられた証左である。加えて、3度の海外の学会でいずれも審査を経て報告を行えたことも大きな成果であると考えられる。特に、European Consortium of Political Research は、ヨーロッパ政治学最高峰の学会であり、2016年にその議会研究グループ、2017年に総大会での報告の機会を得たことは、海外の多くの研究者に研究を知ってもらえると同時に貴重なコメントを得る貴重な機会となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Naofumi Fujimura. 2017. "Running Multiple Candidates, Dividing the Vote under the Single Non-Transferable Vote System: Evidence from Japan's Upper House Elections." *Asian Policy and Politics*, 9 (3): 402-426.

Naofumi Fujimura. 2016. "Re-election Isn't Everything: Legislators' Goal-Seeking and Committee Activity in Japan." *Journal of Legislative Studies*, 22 (2): 153-174.

藤村直史. 2017. 「書評論文議会・政党組織研究の縦と横への広がり：奥健太郎・河野康子編『自民党政治の源流：事前審査制の史的検証』河崎健(2015)『ドイツの政党の政治エリート輩出機能：候補者擁立過程と議会・政府内昇進過程をめぐる考察』『レヴァイアサン』60号：135-139.

[学会発表](計4件)

Naofumi Fujimura. 2017. "Malapportionment, Redistricting, and Political Participation: Evidence from Japan" General Conference of the European Consortium of Political Research, University of Oslo, Norway, September 9.

Naofumi Fujimura. 2016. "Compensation for Policy Loss or Rewards for Party Loyalty? Intraparty Resource Allocation and Resources of Party Unity" General Conference of the ECPR Standing Group on Parliaments,

Maximilianeum, Bavarian State Parliament Munich, July 1.

藤村直史. 2016. "The Mechanism behind Party Unity: Prime Ministerial Campaign Visits in Japan's Lower House Elections." 日本比較政治学会研究大会 6月25日。

Naofumi Fujimura. 2016. "Compensation for Policy Loss or Rewards for Party Loyalty? Intraparty Resource Allocation and Resources of Party Unity." Annual Meeting of the Southern Political Science Association, Caribe Hilton, San Juan, Puerto Rico, January 8.

[図書](計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
藤村 直史 (FUJIMURA, Naofumi)
神戸大学大学院法学研究科 准教授
研究者番号：20551493

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()